

経営責任、経営改善計画めぐり厳しい追及

「よしかわ杜氏の郷」損失補償問題で議論本格化

(株) よしかわ杜氏の郷が農林漁業金融公庫及びJAえちご上越農協から借り入れた長期借入金に対する損失補償についての審議が市議会文教経済常任委員会で11日行われました。この日、私は、市側の説明を15分ほど傍聴し、その後、「愛の家グループホーム上越吉川」の開所式参加のため、吉川区に戻りました。審議の様子は同僚議員などのメモにもとづいて報告します。

同委員会でも市側は、吉川町時代には公表されたことのない損失補償契約証書や(株) よしかわ杜氏の郷経営改善計画書(本年7月同社作成)などを示し、これまでの経過を説明するとともに今後の対応と課題について意見を求めました。どんなことが問題となったのか。主な質問と市側の答弁の概要を紹介します。



【質問】 社長と損失補償先の(ひとつである)JA農協組合長が同一であり、最初から損失補償の方向性が見えていたのではないか。
【答弁】 当時はこの計画を行政もJAも会社も合意を得ていたものである。
【質問】 過去4回の公金支出時

のチェックに甘さがあったのではないか。経営改善計画では、(損失補償する)市には25年で返済、役員には7年とするなど役員の痛みが見えない。ましてJAの責任は何も見えてこない。経営責任を持った人の作成した計画ではなく、コンサルタントが入ったチェックも今後必要と思うがどうか。

【答弁】 結果としてチェックの甘さはあった。経営者責任の明確化、JAには株主、設立発起人としての責任があり、金融機関のみに徹しておられたのでは社会的責任は果たせない。直ちに2者協議に入っていく。

【質問】 今後、市はどういう腹構えで話し合いを持つていくのか。スタート時の日本酒の市場をどう見ていたか。また、その後の経営改善計画がどうだったのか資料を出してもらいたい。本件の連帯保証人は誰か、その資料も提出してほしい。

【答弁】 スタート時の日本酒の市場は低迷していることはわかっていたが、吉川区としての酒文化と酒造づくり思いが先行した。連帯保証人は3人だ。その資料提出については個人情報関係があるので本人の了解が必要である。了解の打診をする。

【質問】 市には他にも第3セクターが多くある。今後こういう問題が出た場合、支援する力があるかどうか問われる。経営責任を何としてもけじめつけるべきだ。

【答弁】 それぞれの第3セクターは目的、経営実態などそれぞれ異なるため、個々に検討していく必要がある。よしかわ杜氏の郷は民設民営という大きな特徴があるが、JA、市などが株主として現在の経営者をきちんとチェックして

きたかなど、それぞれの責任や役割もある。文教経済常任委員は委員長を含めて12人ですが、今回の問題では関心の高さを反映して8人が発言しました。全体的にみると、責任の所在、今後の経営方針の甘さを追及するものが目立ちました。(株) よしかわ杜氏の郷の損失補償問題は今後も継続して審議が行われます。

※(株) よしかわ杜氏の郷の経営改善計画の概要は次号に掲載します。

グループホーム上越吉川開設

吉川区下町地内で建設されていた介護施設「愛の家」グループホーム上越吉川(写真)が11日、開所式を迎えました。

開所式には市長代理の野澤朗健康福祉部長や市内の県議、市議、地元関係者など約30人が集まり、開所を祝いました。



開所式で挨拶に立ったメデイカル・ケア・サービス株式会社長の山崎千里氏は、「『愛の家』グループホームは、上越吉川が全国で98番目の施設となるが、ゆったりとした施設の空間の良さ、設備の良さはこれまでの中で一番だ。ぜひご利用いただきたい」と訴えていました。参加者からも「木造で落ち着いた雰囲気がいい」という声が出ていました。

グループホームは、認知症症状のある高齢者を家庭的な雰囲気の中で介護する施設です。「愛の家」グループホーム上越吉川はすべて個室で、18室が用意されています。